

踏み跡 <My Mountains>

阿武隈	阿武隈の山旅	No.312
-----	--------	--------

かみさんの誕生日を旅先で・・・と言う主旨で、福島へき
のこ探しの旅を計画した。
畑の仲間のSさんの紹介で、オーナーにきのこ採りに連れて
行ってもらえる川内村の民宿を紹介していただいた。

平成20年10月13日

6時半に車で出発。柏ICから常磐自動車道に入ると国道
16号線の混雑で時間がかかるので、今回は新しいルートを開
拓した。千葉北ICから東関東自動車道に入り潮来ICへ。
ここから国道51号線を北上して日立南太田ICから常磐自
動車道に入る。国道51号線は幅広く走りやすいので、思
いのほか楽に常磐自動車道に入ることができた。
いわき湯本ICで下りてまずは手始めに湯ノ岳へ行ってみ
る。県道を小名浜方面へしばらく進み左折すると常磐湯岳
パノラマラインと名が付いた道に入る。徐々に高度を上げ、
やがてヘアピンカーブを上るようになる。湯ノ岳山頂を右
手に見てさらに進むと駐車場がある広場に着いた。
展望台がある頂へ行き景色を楽しむことにしたが、残念な
がら海側の方は霞がかかっているすっきりした展望は得ら
れなかった。

パノラマラインを下って国道6号線を北上、いわき駅前か
ら国道399号線に入ると夏井川に沿うようになる。小川郷
を過ぎると夏井川から離れて少しずつ高度を上げるようにな
る。途中できのこ探しの寄り道をしながら海拔800mほどの山並みを越え、川内村に入った。
まだ時間が早いで村内を探索することにした。かわうちの湯という立派な入浴施設があるので、後の楽しみ
にとっておくことにした。地図を見ていたら、県道小野富岡線をいわき市境方面へ進んだ山中に平伏沼とう沼
がる事がわかった。(国土地理院の地形図には「へぶすぬま」とルビが入っている)モリアオガエル繁殖地と書
いてあるので、行ってみることにした。

小白井川に沿った県道を進んだ後、海拔460m付近から西側の林道に入
ると徐々に登りになり、さらに心細い道になってきた。帰り道が心配に
なる頃に、海拔600m付近で沼の入り口を示す看板が現れた。
車を下りてここからは歩いて登る。山中に入ると笹が混じる雑木林の緩
やかな登りが待ち構えていた。
平伏沼は海拔820mの柔らかい曲線のピークの直下であり、水面に色づ
いた木々を映して、「こんな所にこんな静かな隠れ家を見つけた！」と
いう感じの静けさが周りを支配していた。(右写真)



きのこを探しながらゆっくりと散策をして元の道に戻った。

穏やかそうな佇まいの集落を眺めながら村の中心部に戻り、今宵の宿の小松屋旅館に入った。
入浴は車で村にひとつの温泉「かわうちの湯」へ行き、帰り道で星空を楽しんだ。オーナーの井出さん夫婦は
気さくな方で、山村の宿の飾りすぎない夕食と雑談でひとときを楽しんだ。
明朝5時半出発できのこ採りに行くそうなので、同行させていただくことにした。

平成20年10月14日

5時15分起床、井出さんのワンボックスカーに同乗して出発。いわなの郷という溪流をやり過ごしてしばらく
進んだ林を皮切りにいくつかの山に分けに入った。やや乾燥気味の林ではあるが、いかにもきのこが出そうな林
ばかりでうきうき弾んだ気持ちになって来る。いくつかのポイントを車で移動しては山中に入ることを繰り返
している内に、あっという間に日が高くなって来た。



踏 み 跡 <My Mountains>

宿に戻ってから、ロードマップでこのルートを振り返って見た。檜生川を遡って入った山のピークに建っていたアンテナのようなものは「大鷹鳥谷山 標準電波送信所」つまり電波時計の電波を発信している所らしいことがわかった。大鷹鳥谷山は海拔 794m。

成果を囲んで雑談しながらの朝食は爽快そのもの。食後の小休止の後 8 時半に出発。

しばらくはきのこ採りの余韻に乗って、ここぞと感じた所で車を停めて山に入りきのこ探しを何度も何度も繰り返しながらのドライブが続いた。



次の目標地点は、川内村の西側に聳える大滝根山の反対側にある「あぶくま洞」。巨大な岩山が壁のように立ちはだかる姿は壮観だ。この巨大な岩山の中に鍾乳洞がある。あぶくま洞は見ごたえと歩きごたえがあった。(左写真)

小野村を抜けて県道 42 号線（矢吹小野線）に入り、平田村・母畑湖を抜けて石川町へ。そして国道 118 号を棚倉方面へ少し進み今出川の岸边に建つ猫啼温泉井筒屋が本日の宿。

和泉式部が京に上がるにあたり、可愛がっていた猫をこの地に置いて旅だった。猫が飼い主を探して啼き続けたことから猫啼の地名が生まれた。さらにこの猫が後に病に倒れたが、この地の湯に浸る内に元気を取り戻したという言い伝えがあるとのことである。そんな訳でこの宿の売り文句に「式部のやかた」という飾りが付いている。

平成 20 年 10 月 15 日

今朝は「早朝きのこ採り」はないのでゆっくり寝て 6 時半に起床し朝風呂、そして朝食。

8 時半に宿を出発して、再びきのこを探しながらのドライブ。今日は帰宅する日だが、高速道路をぶっ飛ばして慌てて帰るのも芸がないので、山間の一般道を走りながら田舎の景色を楽しみ、思いがけない収穫を期待して山に入ったり、道の駅や直売店を覗きながら帰ることにした。

古殿町のはずれの山の中にあつた越の大桜は立派なものだったが、残念ながら今は秋。その先にあつた越の清水で美味しそうな水を土産に汲んで帰路に入った。

鮫川・棚倉・埜・矢祭・大子・山方・常陸太田・那珂と抜けて潮来まで一般道を走り、往路と逆に潮来 IC から東関東自動車道に入り千葉北 IC へ。自宅帰着は 19 時ちょうどだった。

以上

<後日譚①>

猫啼温泉の宿（井筒屋）で、廊下に下がっていた猫のイラストのカレンダーが目にとまった。何か心がほぐれるような優しいイラストで妙に欲しくなった。カレンダーの下に書いてある会社の名前を見たら、棚倉町に本社がある M 電機という会社のものだった。

帰京後に早速一筆書いて、来年のカレンダーを提供願えないかとしたためてみた。12 月に入ったある日、この会社の方から段ボールの箱に入った荷物が届いたので開けて見たらカレンダーが 5 本入っていた。

カレンダーに描かれた猫は、岡本肇さんという漫画家が描いた「カバ丸」という有名なキャラクターであることもわかった。カレンダーは我が家の二部屋で使うほかに娘家族・かみさんの実家などにも配り、礼状とともに千葉産のラッカセイをお送りした。

この年から毎年 M 電機からカレンダーが届くようになり、この会社の役員である M さんと年賀状の往復もするようになりもう四年になる。M 電機は福島県下を中心に電機工事や LAN 等の通信工事を行っている会社で、本業のかたわら地元活性化のための様々な活動をリードしておられる元気な会社ようだ。

旅先で見つけた一枚のカレンダーが新しい繋がりを作ってくれた。

<後日譚②>

この旅から二年半ほど経った 3 月 11 日、あの大震災が襲いかかって来た。地震や津波などの直接の被害もさることながら、地震の被害者となった原子力発電所が様々な苦悩を投げかけてくる結果となった。

初めての旅人を歓待し、きのこ採りにつれて行ってくれた川内村の小松旅館も、あたたかい温もりを提供してくれたかわうちの湯も、ゴーストタウンの一角になってしまった。穏やかで豊かそうな麓の連なりを見せてくれた川内村を始めとして、この旅で楽しませていただいた阿武隈の人里の多くが「日々の営み」が許されない廃村のような状態になってしまった。